

第 84 回 企業活性化研究分科会・議事録

< 第八十四回 2015 年 11 月 7 日 (土) 時間 : 13 : 30 ~ 17 : 00 於 : 専修大学 (神田校舎) >

参加者 : 井端、小林、夏目、宮川、山本、渡邊 (6 名)

1. テーマ : 有価証券報告書の虚偽・不正会計に関する分析

—株式会社京王ズホールディングスの場合—

- ・報告者 : 高市幸男 (代読 宮川宏) ・配付資料 : 16 枚
- ・報告内容の要旨

本報告は、株式会社京王ズホールディングス (以下、京王ズホールディングスとする) を題材として、企業における有価証券報告書虚偽記載、および不正会計の理由を明らかにし、企業経営の在り方について考察した。

はじめに、京王ズホールディングスの不正を 5 つの原因に分けて分析した。第一に、佐々木元社長への権限の集中である。第二に、取締役会及び監査役会の監督機能の不全である。第三に、経営者の資質である。第四に内部監査機能の欠如である。営業店舗ごとの業務監査は機能していたものの、全社的な監査は行われず、内部監査機能が不足していたと分析した。第五に、内部通報制度の形骸化である。京王ズホールディングスは、佐々木元社長が創業・設立したため、他の役員及び監査役が意見を言える環境ではなく、取締役、監査役のガバナンスが機能していなかったこと、経営者の会社の私物化があった点を定性的な分析の結論とした。一方で、京王ズホールディングスにおけるガバナンスの有効性を考える必要があるとの議論があった。

財務分析では、3 つの段階 (2002 年 ~ 2006 年を膠着期、2007 年 ~ 2010 年を粉飾期、2011 年 ~ 2013 年を修正期) にわけ分析した。第一の膠着期では、上場後、積極的な M&A により資産を増加させたものの、その資金を借入れに依存したことによる財務体質の悪化を招いた。次の粉飾期では、佐々木元社長と同社の簿外及び不正な経理処理による資金流出問題があった。修正期における財務内容は膠着期と比較して、負債比率は 66.4% から 54.2%、有利子負債構成比率は 32.1% から 18.8%、自己資本比率は 33.6% から 45.8% となり、改善方向へ向かっているとの結論を得た。

不正会計の原因分析において、佐々木元社長が代表であった期においては、京王ズホールディングスは佐々木元社長の個人企業であり、法人として株式市場から資金調達を行うのであれば、法の遵守を徹底すべきであると指摘した。上場廃止後においても営業基盤の棄損はしておらず、財務内容も改善されつつある。それゆえ、今後の経営は再生の方向にあると考察した。

2. 今後の予定について

- ・ 2015 年 12 月 12 日 忘年会
- ・ 2016 年 1 月 23 日 (784 教室) 分析企業—オカモト株式会社— 大野先生
分析企業—東邦亜鉛株式会社— 小林先生

(文責 : 夏目拓哉)